

今につながる 半世紀前の住民運動

大阪
茨木市

原子炉建設撤回させた町

原子炉は人間の手に負えない本質的に危険なもの——。半世紀以上前、茨木市で原子炉建設に反対する空前の住民運動が巻き起こり、「安全神話」を振りかざす国や財界から計画撤回を勝ち取る出来事があった。福島第一原発事故後も政府や電力会社が原発の再稼働や新規建設を進めるなかで、過去の茨木市民の反対運動は何を問いかけるのか。歴史の足跡をたどった。



反対運動を伝える京阪新聞(上)と期成同盟の機関紙(下)

水源地に計画

「原子炉といふとんでもないものがやってくる、という怒りの声が続出していった。茨木市の歯科医師・永田悦夫氏(81歳、協会顧問)は、当時の住民の反応を振り返る。1957年8月、原子力委員会は茨城県東海村に続き、全国で2基目の研究用原子炉を高槻市西端の阿武山(あぶやま)に建設する計画を公表した。現地は茨木市を流れる安威川(あいがわ)に沿って、同市の上水道取水口からわずか200〜300メートル上流だった。「なぜここに造るのか。降って湧いた原子炉計画に、建設地付近の安威川流域を中心に撤回を求める声が上がると、瞬く間に市内全域に反対が広がった。当時の資料を発掘し、今に伝える活動を続ける市民グループの神山治夫さん(80歳)は、「市民の思いは、水道源を脅かし、生活と故郷を危険にさらす原子炉の設置は許さないという、極めて根源的な願いだった」と話す。



小都市犠牲

原子炉設置計画は当初、京都・宇治川沿いに建設する予定だった。大阪市民の水源地である淀川の支流を理由に大阪府知事・大阪市長・大阪財界が反対を表明。しかし、阿武山案が浮上した途端、積極的誘致に転じた。

本質的に危険

政府や関西財界は、住民説得のために「原爆と違って平和利用の原子炉は絶対安全」とするプロパガンダを実施。推進派の学者による聴聞会を隣接市で開き、「茨木市民は原爆と原子炉の違いも分かっていない」として、住民の分断を図った。

署名9割超

この動きに対し、茨木市民は専門家に要請して原子炉の安全性について徹底して学習を重ね、推進派と反対派の学者による公開討論会を開かせた。武谷三男立教大学理学部教授から「原子炉は本質的に危険なものである」との核心を突く発言が出ると、この言葉を軸に論陣を張った住民運動は燎原の火のごとく広がりをみせる。

反原発の力に

計画公表から1年半後、住民の勢いに圧倒された原子力委員会はついに計画を撤回。その後、交野や四條畷、堺などいくつかの候補地を経て、61年に熊取町での設置(現京都大学原子炉実験所)が決定した。神山さんは、「原子炉の設置・運転と住民合意との関係で、最初の本格的な矛盾・対立となったのが阿武山原子炉だった。茨木市民の運動は、計画公表から1年半後、住民の勢いに圧倒された原子力委員会はついに計画を撤回。その後、交野や四條畷、堺などいくつかの候補地を経て、61年に熊取町での設置(現京都大学原子炉実験所)が決定した。神山さんは、「原子炉の設置・運転と住民合意との関係で、最初の本格的な矛盾・対立となったのが阿武山原子炉だった。茨木市民の運動は、



原子炉撤回運動について語る神山治夫さん

「地元住民の納得と合意抜きには原子炉の建設は認められない」という原則の初例となった」と歴史的意義を語る。その後、各地で原発建設が進められたが、茨木市民の運動は全国25カ所にわたって原発建設を中止・撤回させる住民運動の大きな力となっている。

教訓広げる

原発事故後、神山さんは以前図書館で読んだ「阿武山の原子炉設置反対運動の記録」故梓山紀一著を思い出し、資料を発掘。有志の市民グループをつくり、半世紀前の住民運動を伝え、原発の危険性を市民と共に考える活動を続けている。当時の運動を紹介する記録展と集会は24回を数え、のべ470人が参加。昨年10月には、住民運動55周年を記念し、「原発を考えるつどい」を開いた。700人を超える市民が集結し、保守の有力者からも賛同が寄せられるなど、広がりをみせている。5月には、「原発なくそう茨木市民の会」(仮称)の発足をめざしている。「茨木は全市を挙げて運動に取り組んだ経験がある。歴史を学び、教訓を広げ、すべての市民の理解の下で原発ゼロをめざす運動を進めていきたい」活動のキーワードは、「原子炉は本質的に危険なもの」だ。

外来環研修会・指導対策講習会のご案内

外来環の施設基準に係る
研修会

4月13日(土)
午後6時~8時

会場 M&Dホール 定員 100人
講師 原田文司氏(大阪大学大学院歯学研究科口腔外科学第一教室助教)

会費 1000円(受講証発行料含む)
※参加は大阪歯科保険医協会会員本人に限る。途中で入退場の場合は受講証発行の対象外

個別指導対策講習会

6月8日(土)
午後6時半~8時半

会場 M&Dホール 定員 100人
講師 社保研究部講師団
会費 会員1000円

※『カルテ記載を中心とした指導対策テキスト2010年8月版』を持参



お申し込みやお問い合わせは協会事務局まで (TEL06-6568-7731)

新刊『今日からできる歯科訪問診療の手引き』2012年版

歯科訪問診療の入門書として必要な知識をまとめた1冊。新設された周術期口腔機能管理の解説の追加や、居宅療養管理指導など2012年診療報酬・介護報酬の同時改定を受けて保険請求についての解説を大幅に変更しています。診療の一助にご活用ください。

主な内容

- ◆歯科訪問診療・居宅療養管理指導の保険請求
- ◆摂食嚥下障害へのアプローチ
- ◆安全管理と全身疾患への対応
- ◆認知症高齢者への対応——など



A4判83ページ定価:1500円(送料込み) ご注文は協会事務局(TEL06-6568-7731)まで